

類別：器 58 整形用器械器具
一般医療機器 骨手術用器械（JMDN コード 70962001）

ハンド用骨手術器械

【警告】

1. 本品は未滅菌品であるので、滅菌してから使用すること。【感染、伝染を引き起こす恐れがあるため】

【禁忌・禁止】

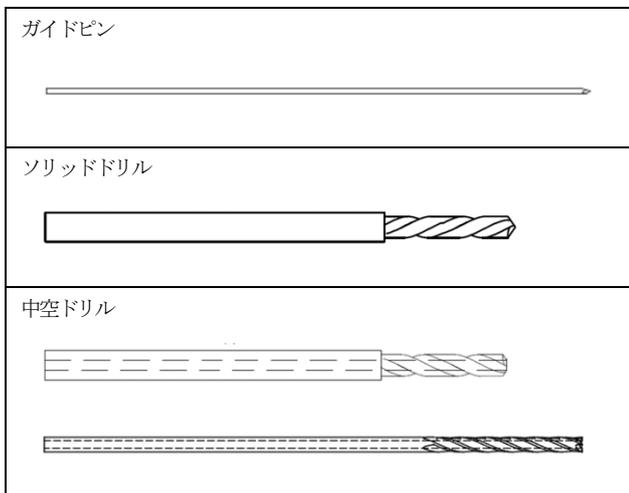
1. 本品を加工、改造しないこと。【本来の性能が発揮されないことがあるため】

【形状・構造及び原理等】

<組成>

ステンレス鋼

<形状・構造（一例）>



<原理>

本品は、接続部に骨手術用器械等を装着し、本品に力を加えることにより、切削、切除、切断、穿孔を行う。

【使用目的又は効果】

<使用目的>

本品は、骨手術における切削、切除、切断、穿孔に用いる手術器械です。本品は再使用可能です。

【使用方法等】

<使用前>

1. 本品は、未滅菌品であるので、手術前に予め次に示す滅菌条件を参考に滅菌バリデーションが検証され、有効性が立証された滅菌条件により滅菌を行って下さい。

滅菌条件の例：高圧蒸気滅菌（日本薬局方）

滅菌温度	保持時間
115-118℃	30分
121-124℃	15分
126-129℃	10分

<使用方法>

使用方法例

1. ソリッドドリル
 - 1) 本品を骨手術用器械に取り付ける。
 - 2) 本品を回転させて、骨に孔を作成する。
2. ガイドピン
 - 1) 本品を骨手術用器械に取り付けて骨を穿孔し、本品を骨の適切な位置に固定する。
3. 中空ドリル
 - 1) 本品を骨手術用器械に取り付ける。
 - 2) ガイドピンに被せて本品を回転させて、骨に孔を作成する。

【使用上の注意】

1. 使用注意

- 1) 使用前に、本品に不具合が無いことを確認するとともに、骨手術用器械に適切に取り付けられていることを確認すること。
- 2) 緊急時に備え、複数本準備すること。
- 3) 本品の使用により感作又は金属アレルギー反応を呈する可能性がある患者には使用しないこと。
- 4) 感染症・神経障害・骨質不十分・高齢者などの患者に使用する場合には慎重に使用すること。
- 5) 本品に破損を及ぼすような過剰な負荷をかけないように適切に使用すること。
- 6) 高密度の皮質骨の穿孔に際しては、無理に穿孔を継続せず、本品を上下に出し入れし、微細骨片（切削粉）を取り除いたり、穿孔部や本品に注水して冷やしたりする等、慎重に穿孔を行うこと。

2. 重要な基本的注意

- 1) 手術医は、本品使用に際し、手術手技について十分に熟知していること。
- 2) 本品に傷、汚れ、摩擦などの異常があるものは使用しないこと。
- 3) 術野内で本品が破損した場合、全ての破損片を除去すること。

3. その他の注意

- 1) 洗浄：
 - (1) 使用後は直ちに酵素性剤等に浸漬させ、器具類に付着した血液、体液、組織等を乾燥させないこと。
 - (2) 腐食（錆び）の原因となるので、洗浄の際、磨き粉や金属ウール・金属ブラシ、クレンザー（磨き粉）等は、使用しないこと。
 - (3) ウォッシュャー・ディスインフェクターを使用するだけでなく、用手洗浄を併用して洗浄すること。
錆取り、熱焼け除去作用のある洗浄剤を使用すると表面の光沢が変化することがある。
 - (4) 器具に付いた洗浄液の残留が無いよう、精製水等により、良くすすぐこと。
 - (5) すすぎに使用するのは精製水、などの清水で洗浄すること。水道水は残留塩素や有機物により錆が発生することがあります。
 - (6) 錆取りをした後は、予防のためにステンレス再活性液などに浸漬洗浄することをお勧めします。

(7)中空構造を持つ器械 については、隙間部に血塊等が残存しないよう、入念に洗浄すること。

2)消毒：

(1)アルカリ／酸性洗剤・消毒剤は、器具及びケースを腐食させることがあるので、使用しないこと。

(2)器具に付いた消毒液の残留が無いよう、精製水等によりよくすすぐこと。

(3)消毒後の器具は、長期間水分が付着すると錆びることがあるので、直ちに乾燥させること。

(4)包装：滅菌方法に適した包装材料を使用すること。

3)滅菌：

(1)滅菌器のマニュアルを熟知し、その仕様範囲内で滅菌すること。インジケータ等により管理すること。

【保管方法及び使用期間等】

1. 貯蔵方法・保管方法

- 1)高温、多湿、直射日光及び氷めれを避けて室温で保管すること。
- 2)本品に損傷が認められた場合には、速やかに使用を中止して交換すること。
- 3)使用後は、洗浄・滅菌後保管すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

株式会社 ベアーメディック

電話番号：03-3818-4041